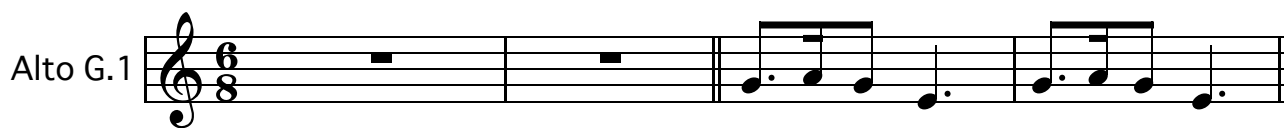


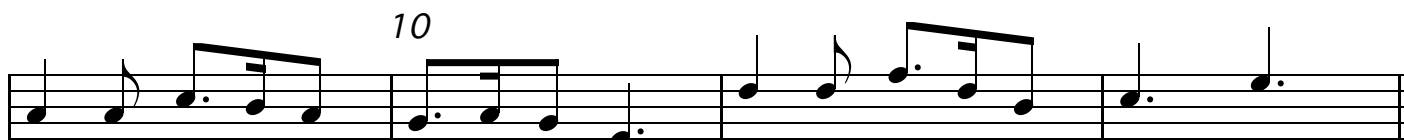
きよしこの夜

グルーバー

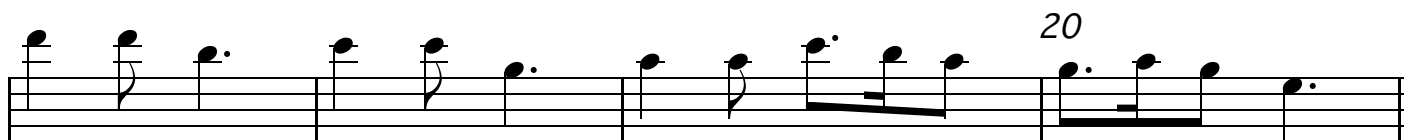
5

Alto G.1 

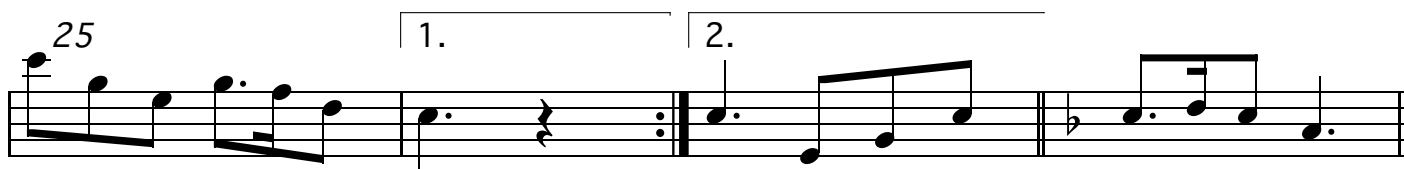


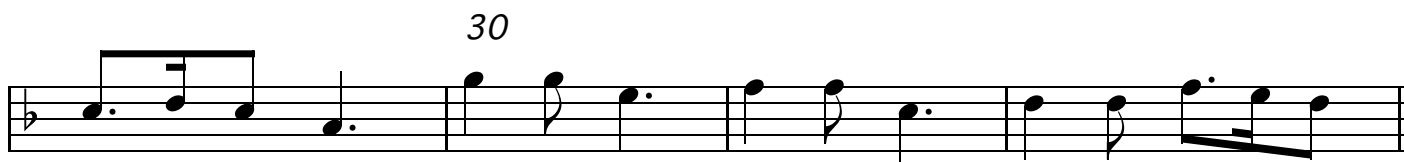
10 

15 

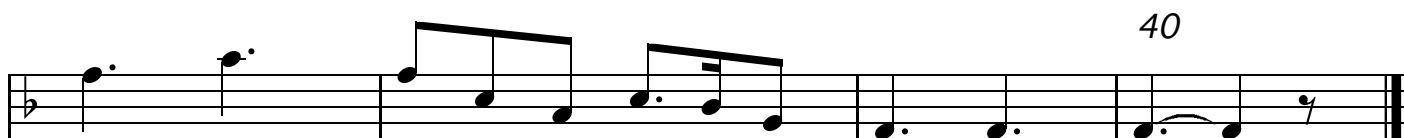
20 



25 

30 

35 

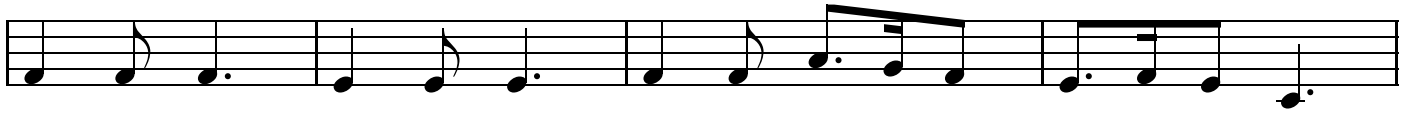
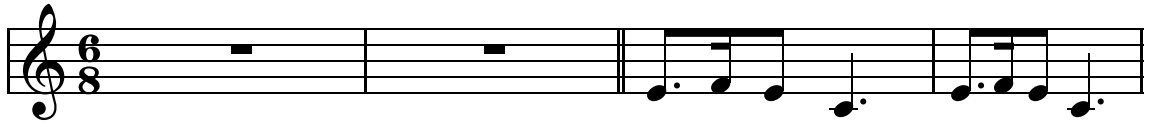
40 

きよしこの夜

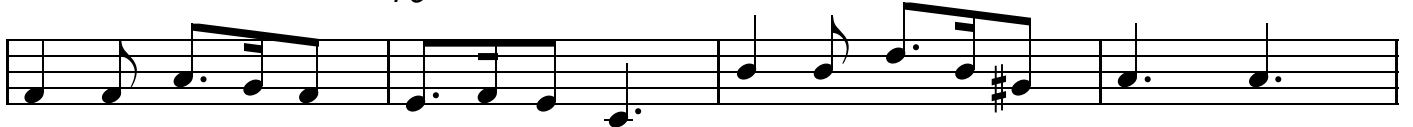
グルーバー

5

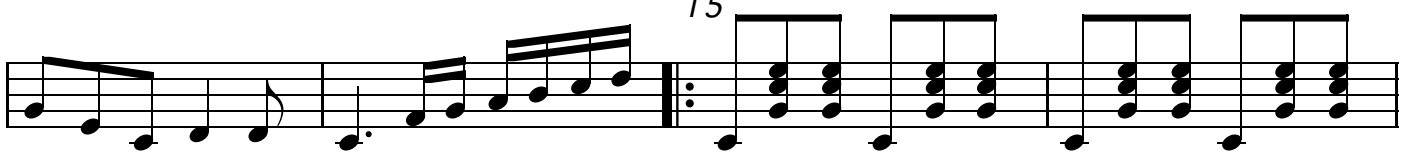
Alto G.2



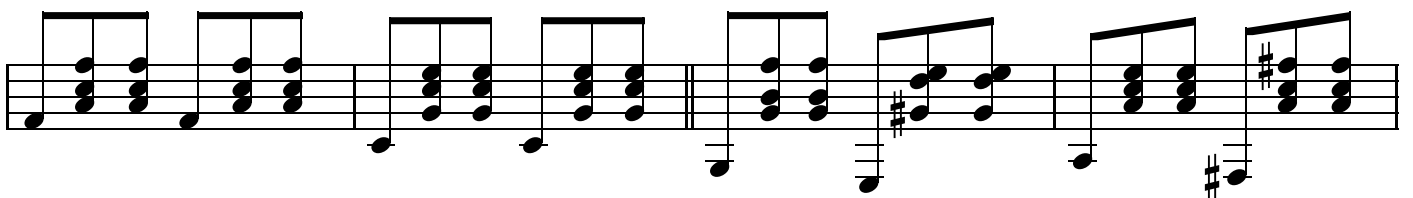
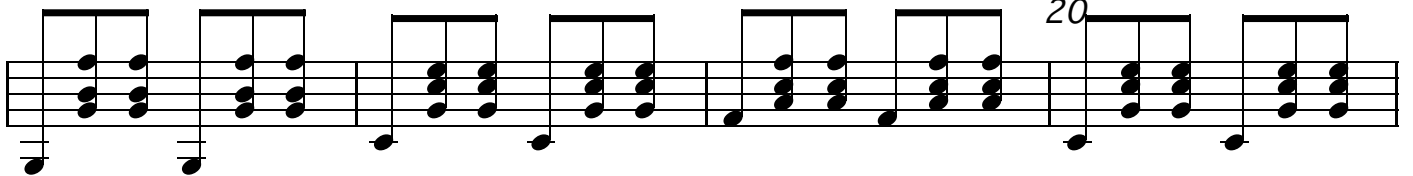
10



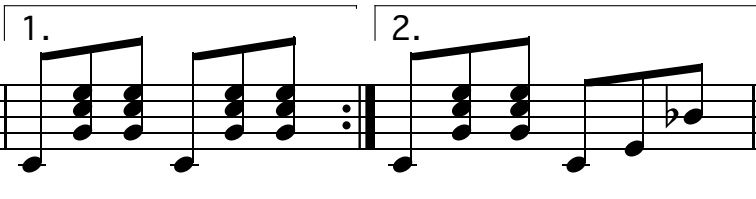
15



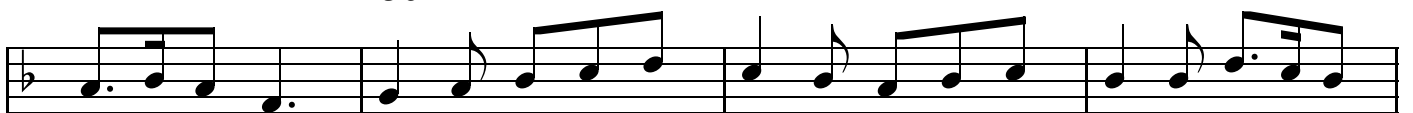
20



25



30



35



40

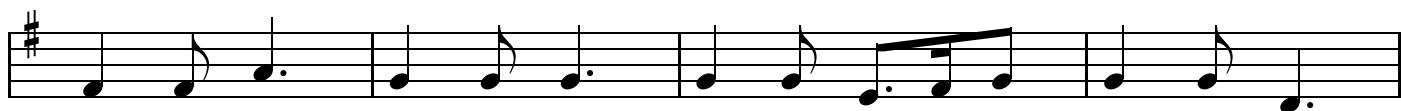
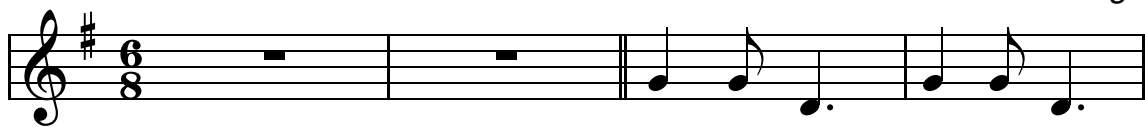


きよしこの夜

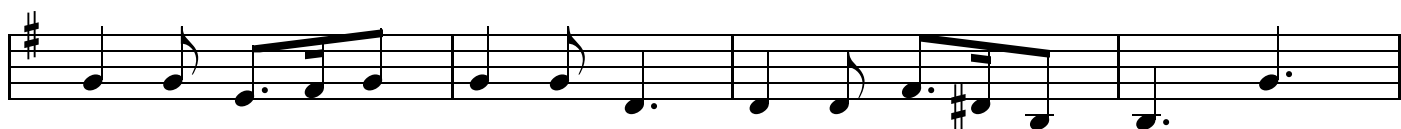
グルーバー

5

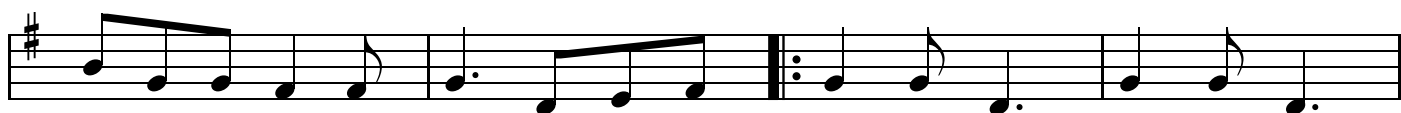
Prim G



10



15



20



25

1.

2.



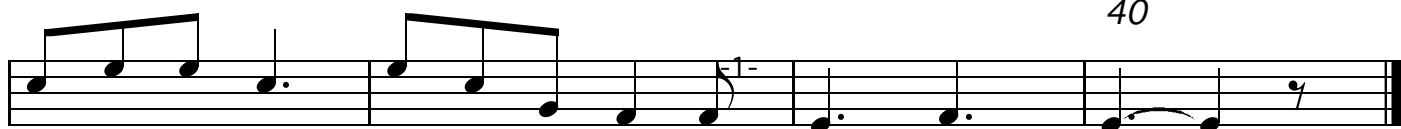
30



35



40

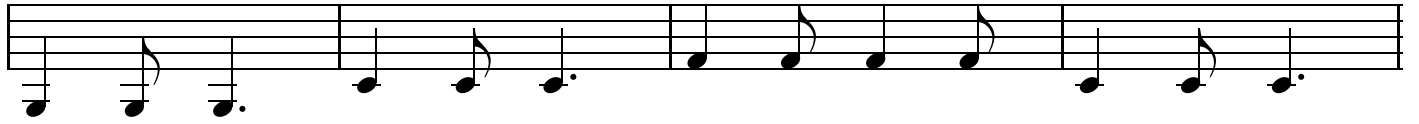
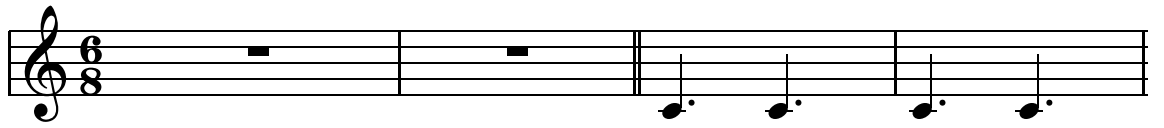


きよしこの夜

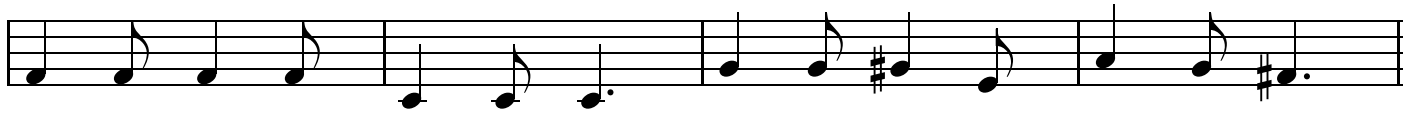
グルーパー

5

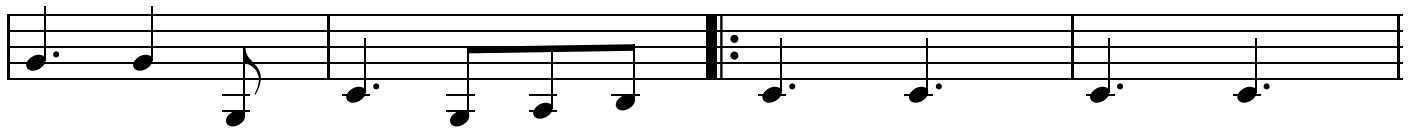
Bass G.



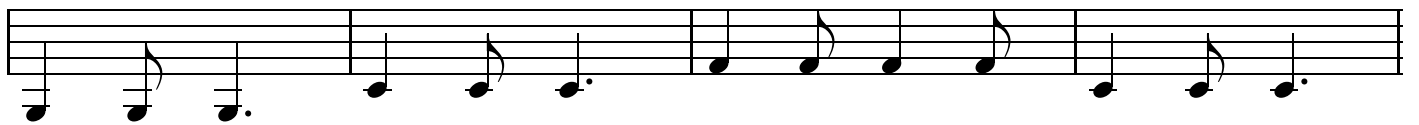
10



15



20

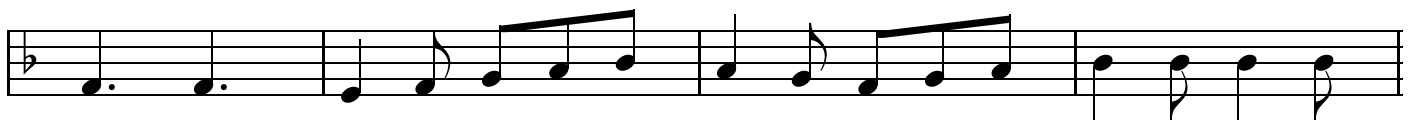


25

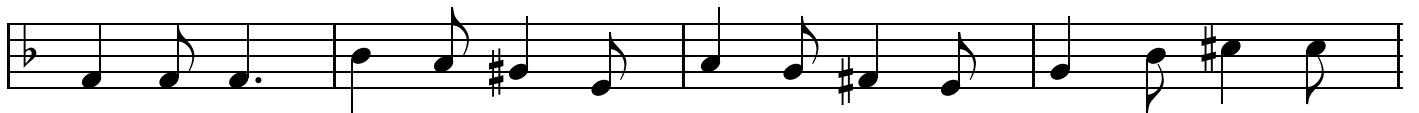
1. | 2.



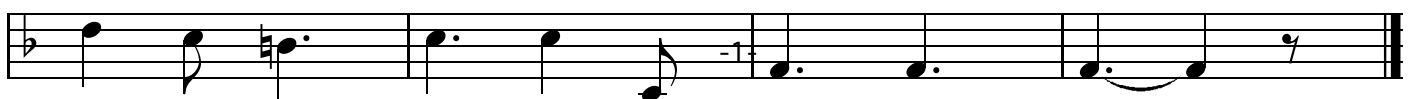
30



35



40

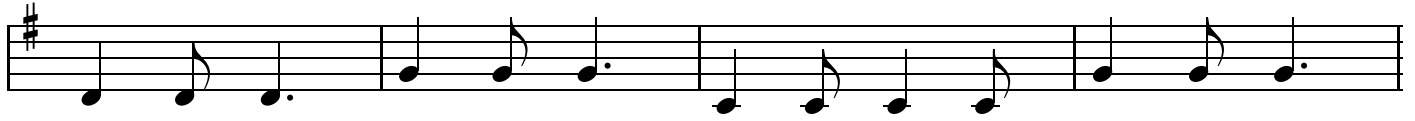
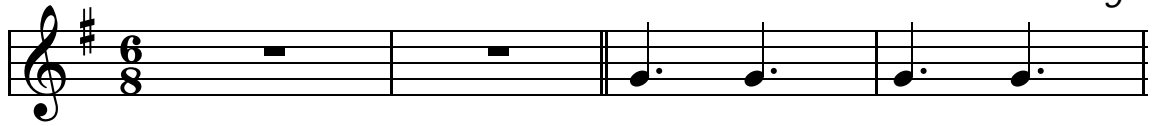


きよしこの夜

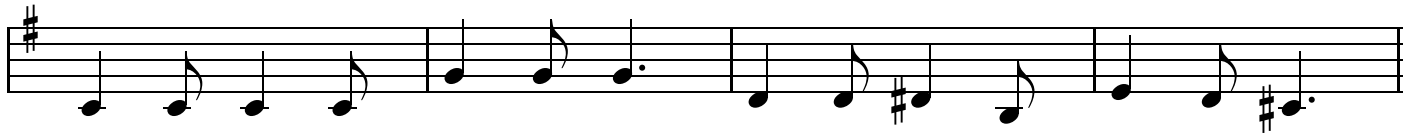
グルーバー

Contra Bass G.
&
Guitarron

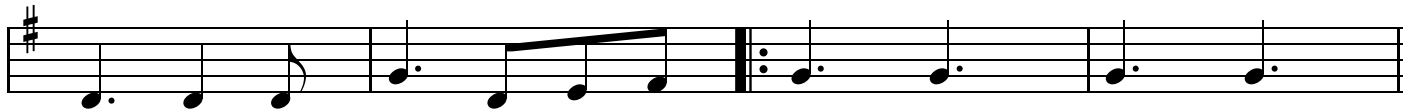
5



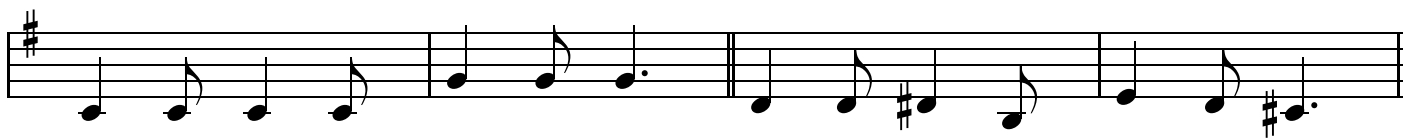
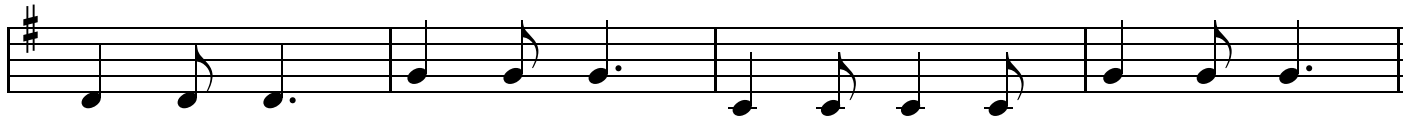
10



15



20



25

1.

2.



30



35



40



清し この夜
星は光り 救いの御子(みこ)は
馬槽(まぶね)の中に 眠り給う
いと安く

清し この夜
御告(みつ)げ受けし 牧人達は
御子の御前(みまえ)に ぬかずきぬ
かしこみて

清し この夜
御子の笑みに 恵みの御代(みよ)の
朝(あした)の光 輝けり
ほがらかに

(Japanese, Roman character)
Kiyoshi kono yoru,
hoshi wa hikari, Sukui no Miko wa,
mabune no naka ni, Nemuri-tamo,
ito yasuku.

Kiyoshi kono yoru,
mitsuge ukeshi, Maki-bito tachi wa,
Miko no mimae ni, Nukazukinu,
kashikomite.

Kiyoshi kono yoru,
Miko no emi ni, Megumi no miyo no,
ashita no hikari, Kagayakeri,
hogarakani.

1818年のクリスマス みなさんは、クリスマスの時にはいつもおなじみの「きよしこの夜」歌をもうご存じですね。

この歌は一八一八年にオーストリアの寒村のオーベルンドルフのある教会で作られたものです。当時、クリスマスイブの夜を迎えようとしていたこの教会のパイプオルガンが壊れてしまっていて、修理はクリスマスの礼拝までに間に合いそうにありませんでした。

村の聖歌隊はイブの礼拝に備えて懸命に練習を重ねてきていましたが、複雑で難しいクリスマス・カンタータを伴奏なしで歌いこなすことは不可能なことでした。

この状況に、教会のオルガニストの青年フランツ・グルーバーと青年牧師のヨーゼフ・モールの二人は途方にくれてしまいました。

彼らはこの絶体絶命のピンチの中で、驚くべき偉業を達成したのです。

青年牧師ヨーゼフは、パイプオルガンでなく、彼が持っていた一本のギターで、クリスマスの神聖さを表現する簡潔な歌詞に、メロディをつけることで何とかなると考えたのです。

ヨーゼフは、そう思った瞬間、歌詞がほどばしり、紙に書き始めました。

そして、出来上がったものをオルガニストのフランツが目にしたのはイブの日も午後になってからで、彼がやっと曲を完成させたのが、もう聖歌隊が集まり始める時間でした。

こうして、音でなくなった役立たずのオルガンに不服顔であった会衆は、オルガンの曲こそ聞けませんでした。代わりに、ギターに合わせて歌われる、若い新任牧師のテノールとオルガニストのバスの歌声と、それを繰り返す聖歌隊の歌声を聞いたのです。

その歌詞とメロディは、礼拝に集まった人々の心を強く捕らえ、多くの人々がそれを口ずさみながら教会を出ていったのです。そして、このピンチのなかで急きょ自作自演した歌が、やがて世界で最も親しまれるクリスマス・キャロルになったのです。それが、「きよしこの夜」です。（「とっておきのクリスマス」P87 フォレストブック を参考）よくピンチがチャンスということばあります。あなたの最悪と思われる状況はなんですか。その状況をチャンスに変えるかどうかは、あなたのものの見方しだいです。

聖書では、二〇〇〇年前のクリスマスの出来事をつぎのように語っています。

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」(ルカ2:11)